

## 胃がんABC検査

料金：6,600円

ピロリ菌抗体検査と胃粘膜委縮マーカーを組合せ、胃がんリスクを層別化する検査。専用報告書あり、資料ページ①参照

料金：5,500円

## ピロリ菌(便)

便中のピロリ菌を調べる検査（要提出）  
尿素呼気検査と同等の高い判定力がある

料金：3,300円

## ピロリ菌(採血)

血中のピロリ菌抗体を測定  
過去・現在を含めた感染の有無がわかる

料金：3,300円

## シフラ(肺がん)

主に肺がんのスクリーニングに有用

料金：3,300円

## PSA(前立腺)

前立腺がんのスクリーニングに有用

料金：8,800円

## 男性腫瘍4種

AFP（肝臓）・CEA（消化器系など）・CA19-9（膵臓や胆管など）  
PSA（前立腺）のスクリーニング

料金：9,900円

## 女性腫瘍5種

FP（肝臓）・CEA（消化器系など）・SCC（子宮）・CA125（卵巣）  
CA19-9（膵臓や胆管など）のスクリーニング

料金：3,300円

## 甲状腺セット

甲状腺異常（橋本病やバセドウ病）のスクリーニング  
TSH・Ft3・FT4

料金：2,200円

## 貧血セット

貧血に関連した検査項目セット  
Fe・UIBL・フェリチン定量・網状赤血球

料金：5,000円

## 基本採血セット

血球・肝機能・脂質・腎機能の基本採血  
詳細は、資料ページ①参照

HBs抗体・抗原  
HCV抗体・梅毒

料金：10,000円

左記感染症の有無を検査

HBs抗原・抗体  
HCV抗体

料金：6,000円

左記感染症の有無を検査

梅毒

料金：4,400円

TP抗体定性(過去の感染有無)・RPR法定性(活動性・治療効果)を検査

HBs・HCV  
各1項目

料金：2,200円

HBs抗原：感染の有無、HBs抗体：免疫の有無(ワクチン接種後など)  
HCV抗体：感染の有無を検査

HIV抗原・抗体

料金：3,300円

HBs抗原：感染の有無、HBs抗体：免疫の有無(ワクチン接種後など)  
HCV抗体：感染の有無を検査

麻疹・風疹  
水痘・おたふくかぜ

料金：11,000円

先の抗体の有無を検査(ワクチン後の抗体価検査)  
全てEIA法-IgGで検査。希望ある場合は、当日お知らせください。

麻疹・風疹  
水痘・おたふくかぜ  
各1項目

料金：3,300円

左記の1項目での検査

アレルギー  
39項目

料金：13,000円

どの物質が、アレルギー反応を起こすかIgE抗体の量で調べる検査  
詳細は、資料ページ②参照

血液型(ABO/Rh)

料金：2,200円

血液型の検査

MCI  
スクリーニング+

料金：22,000円

軽度認知障害(MCI)リスク検査  
検査結果は、専用報告書でお渡しします。詳細は、資料ページ②参照

## 項目ごとに異なります

採血  
1項目～

ご希望の項目を、予約時にお伝えください

料金：3,500円

便 細菌5種

シゲラ・腸チフス・パラチフス・サルモネラ菌・O-157  
要便提出（当日にキットお渡し）

料金：2,200円

便潜血 2日

2日間便を採取し、潜血の有無を検査  
要便提出（当日にキットお渡し）

料金：550円

尿検査 3項目

潜血・たんぱく・糖

料金：1,500円

尿検査 10項目

潜血・たんぱく・糖・白血球・ウロビリノーゲン  
ケトン体・亜硝酸塩・ビリルビン・Ph・尿比重

料金：5,000円

MRSA

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の検査  
咽頭・鼻ぬぐいで検体採取します

料金：2,200円

心電図

心臓が動く際に発する微弱な電気信号を波形として記録する検査  
不整脈や虚血性心疾患などを発見することができる

料金：2,200円

胸部レントゲン

肺がんなどの呼吸器疾患の早期発見や心臓の大きさや形の異常確認、  
胸郭や胸膜の異常発見など

料金：550円

視力

ランドルト環を用いた視力検査  
眼鏡やコンタクト着用でも検査可能

料金：550円

聴力

オージオメーターを用いた簡易聴力検査

胃がんABC検査

胃がんリスク層別化検査(胃の健康度)ABC分類チャート

**胃がんリスク層別化検査(胃の健康度) ABC分類 チャート**

0383500 BML 見本病院  
 受付No. 001-0001  
 採取日 '23年 4月 1日  
 発行日 '23年 4月 1日  
 報告日 '23年 4月 3日  
 担当 9分9イ 先生 青 藤 比 紗 子

ABC検査

検査項目	測定結果	判定	ABC分類
H. ピロリ抗体/LA (ラテックス生研)	8.9 U/mL	(-)	A
ペプシノゲン I/LA (オートペプシノゲン)	42.8 ng/mL	(-)	
ペプシノゲン II/LA (オートペプシノゲン)	11.2 ng/mL	(-)	
ペプシノゲン I/II 比	3.8	(-)	

検査項目の( )内は試験名称です。

陽性判定基準	
ヘリコバクター・ピロリ抗体 10.0 U/mL以上	ペプシノゲン ペプシノゲンI値が70.0 ng/mL以下 かつ ペプシノゲンI/II比が3.0以下

**胃がんリスク層別化検査 ABC分類とは…**  
 胃癌・十二指腸潰瘍の主な原因と考えられているヘリコバクター・ピロリ菌の抗体価検査と胃酸産生指標(老化)マーカーのペプシノゲン検査を組み合わせて、胃がんリスクをABCの3群に分けるのが胃がんリスク層別化検査ABC分類です。このABC分類を用いて、胃がんリスクに応じた検診時期を設定し、効率的に検診を行う方法が胃がんリスク層別化検査です。  
 ※ ABCDの4群に分類するABCD分類もあります。 0001

**<ABC分類に選さない方>**  
 ・胃の病気の治療中の方  
 ・胃酸を抑える薬を服用中の方  
 ・ヘリコバクター・ピロリ菌除菌治療を受けた方  
 ・胃切除後の方  
 ・腎不全の方  
 これらに該当する方は医療機関にて確認、ご相談ください。

**ABC分類 (ABCD分類)**

		ヘリコバクター・ピロリ抗体価検査	
		(-)	(+)
ペプシノゲン検査	(-)	A	B
	(+)	D (C)	C

※印で示した分類があなたの検査結果です。

**A群** おおむね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。生活習慣病など、ピロリ菌に感染しない状態に近づきましょう。未感染の可能性が高いですが、一度にはピロリ菌の感染や病気の発症がある方もいます。一度は内視鏡検査などの検診を受けることが望ましいです。

**B群** 少し弱った胃粘膜です。胃がよー、十二指腸がよーなどに注意しましょう。胃がんのリスクもあります。内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

**C群** 要領の悪化した胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられます。定期的な内視鏡検査をお勧めします。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

**D群 (C群)** 要領が非常に悪化した胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがあります。ピロリ菌除菌治療をお勧めします。かならず専門医療機関で内視鏡検査などの診察を受けてください。

**E群** ピロリ菌の感染を受けたり、胃酸分泌が低下したり、E群(高齢者)として定期的な内視鏡検査を受けましょう。年齢により胃がんになるリスクは高くなりますが、決してE群になるわけではありませんので、定期的な内視鏡検査による経過観察が必要です。

**ヘリコバクター・ピロリ抗体価検査とは…**  
 胃がヘリコバクター・ピロリ菌に感染していないかを調べる検査です。ヘリコバクター・ピロリ菌は胃酸の分泌や胃粘膜の免疫能の働きが不十分な幼小児期(4~5歳)頃までに感染すると考えられています。子供の頃に感染しなかった場合、大人になってから感染することは稀だとされています。

**ペプシノゲン検査とは…**  
 食べ物の消化に関与する「ペプシノゲン」という物質の血中濃度を調べることで胃粘膜の要領(老化)の状態を客観的に調べる検査です。

000-00 ※  
BML 胃ピーエムエル (2011)

基本採血セット

<b>血球数</b>	WBC(白血球)・RBC(赤血球)・Hb(ヘモグロビン) Plt(血小板)・Ht(ヘマトクリット)
<b>肝機能</b>	ASL(GOT)・ALT(GPT)・γGTP
<b>脂質</b>	TG(中性脂肪)・トリグリセライド) HDL・LDL
<b>腎機能</b>	クレアチニン・eGFR 尿素窒素(BUN)

※オプション検査のみ希望の方は別途、費用が追加されます(診察・手技料等3,800円)

アレルギー  
39項目

吸入系・その他	
室内塵	ヤケヒョウダニ、ハウスダスト1 
動物	ネコ皮膚、イヌ皮膚  
昆虫	ガ、ゴキブリ  
樹木	スギノキ、ヒノキ、ハンノキ（属） シラカンバ（属） 
イネ科植物	カモガヤ、オオアワガエリ 
雑草	ブタクサ、ヨモギ 
真菌	アルテルナリナ（ススカビ）、カンジタ アスペルギルス（コウジカビ）、マラセチア（属） 
職業性	ラテックス 

食物系	
卵	卵白、オボムコイド 
牛乳	ミルク 
甲殻類	エビ、カニ  
豆類	大豆、ピーナッツ 
穀類	小麦、ソバ、米  
肉類	鶏肉、牛肉、豚肉   
魚類	マグロ、サケ、サバ  
果物その他	キウイ、リンゴ、バナナ、ゴマ   

MCI  
スクリーニング+

もの忘れの自覚のない健康な状態から  
MCI（軽度認知障害）の発症リスクを評価

MCIスクリーニング+報告書サンプル

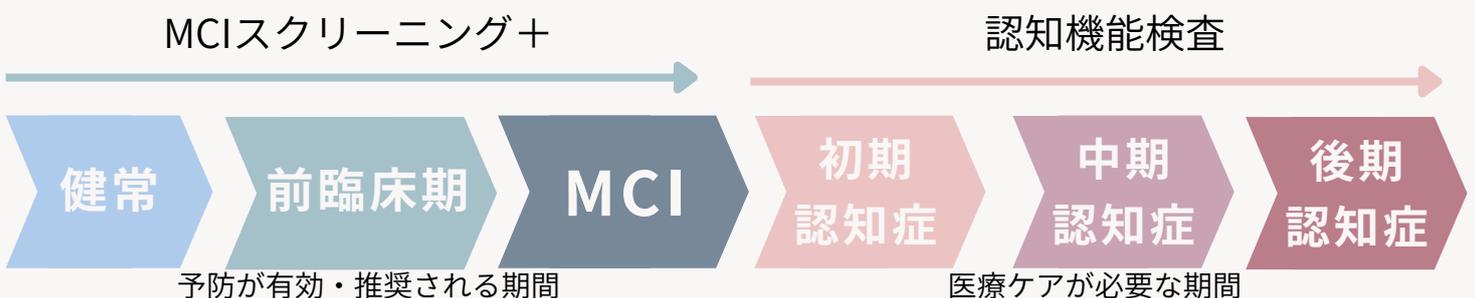
○MCIスクリーニング+検査に適しているご年齢：**40歳以上の方**

認知症発症の約20年前からアミロイドβの蓄積が始まると言われています。

アミロイドβの蓄積は、加齢・生活習慣が関与しています。

認知症予防には、自覚症状がない早い段階での検査・生活習慣改善が有効です。

※アミロイドβ：認知症の原因の1つ



※オプション検査のみ希望の方は別途、費用が追加されます（診察・手技料等3,800円）